

【ポスター発表】

グリーンソーシャルワークから見た農福連携

○ 南九州大学環境園芸学部 林 典生 (会員番号 005404)

キーワード：農福連携、グリーンソーシャルワーク、多面的な機能

1. 研究目的

日本国政府により「農福連携について、全国的な機運の醸成を図り、今後強力に推進する方策を検討するため、省庁横断の会議として「農福連携等推進会議」を設置し、第1回会議を平成31年4月25日(木曜日)に、第2回会議を令和元年6月4日(火曜日)に開催しました。第2回会議では、今後の推進の方向性を「農福連携等推進ビジョン」として取りまとめました。」(農林水産省,2023)が提示され、推進する政策が取り組まれている現状が見られる。また、厚生労働省により地域共生社会のポータルサイトが開設され、その中他の分野との連携の中に農福連携の文言が見られる(厚生労働省,2023)。

農福連携につながる視点として、日本学術会議が2001年に『地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)』が提示され、その答申の中に『農業のもつ福祉機能と教育機能については、既に広く社会的に認知されている。障害者のリハビリテーションあるいは高齢者の機能回復などに、農園芸活動が有効なことはよく知られているが、特に生命倫理を伝える教育機能は、近年とみに重要性を増しており、初中等教育現場への導入が進んでいる。なんとといっても、農業生産とはいのちを育て、そのいのちを人間生存の食料として供給(いのちの転移)しているところに意味があるのである。』との記述がみられる。

一方、レナ・ドミネリ(2017)による『グリーンソーシャルワークとは何か』が出版されるとともに、ソーシャルワークのグローバル定義の前文の中に『社会システムおよび自然的・地理的環境と人々の生活が相互に関連していることに着目する。』(日本ソーシャルワーカー連盟、2020)の文言が記載された様に、今までのソーシャルワークが「個人」と「他者」や「居住地域」といったミクロな関係性に着目する支援を行うことで問題を解決し、人々の生活向上に寄与してきたが、新しいグローバル定義によると社会システムおよび自然的・地理的環境と人々の生活が相互に関連することを強調されているように、「個人」と「環境(動物、植物、土壌、大気、水等)」のマクロな関係性にまで対象が拡大されている。

そこで本研究では農福連携をグリーンソーシャルワークの視点から見ることを通じて、一元的に理論的理解できる共通基盤を見出すことが出来るとともに、これらの実践の発展を企図する考察を試みた。

2. 研究の視点および方法

本研究はグリーンソーシャルワークの視点に基づき、農福連携の実践の特徴と共通事項を踏まえた上で、それらを床支えする一元的理論を探求するための理論的考察を実施した。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会倫理規程に則って研究を実施した。本研究は先行研究の整理・分析であるため、自説と他説の峻別は特に注意した。なお、本発表は開示すべき利益相反はない。

4. 研究結果

グリーンソーシャルワークの重要な視点として、グリーンソーシャルワークの中に『この実践は世界中の人々、植物、動物、天然資源の間の相互依存性と連帯を促そうとするものである。(22 ページ)』(レナ・ドミネリ,2017)とホリスティックな視点が見られた。これは日本学術会議の答申にある多面的な機能を具体的に発揮させるための共通基盤として理解する必要があることが明らかとなった。また、『ローカルをグローバルに、グローバルをローカルにつなぐエンパワメントのプロセスで、すべてのもので分かち合われるべき一つの世界において、ソーシャルワーカーはコミュニティの動員を通じて非常に重要な役割を有している。(202 ページ)』(レナ・ドミネリ,2017)と記載されており、これは農福連携が農業と福祉との単なる連携ではなく、農業と福祉との連携を用いて地域共生社会に向けて新しい仕組みづくりを構築する必要があることが示唆された。

5. 考察

本研究ではグリーンソーシャルワークでも日本学術会議で議論されている多面的な機能と共通する視点が見られた。しかし、これらの共通する視点を持って、新しい仕組みづくりを構築するためには、当事者の立場を尊重して、当事者や関係者に対して理解できやすいように分かりやすい言葉で根拠を持って語り合いながら進めることが考えられ、今後、実践現場と協働しながら研究を進める必要があることが明らかになった。

引用文献

Lena Dominelli (2012) GRREN SOCIAL WORK(1st Edition)., Polity Press Lth., (=2019, 上野谷加代子・所めぐみ監訳『グリーンソーシャルワークとは何か 環境正義と共生社会実現』ミネルヴァ書房.)

日本ソーシャルワーカー連盟 (2020)「ソーシャルワーカーの倫理綱領」

(<https://jfsw.org/code-of-ethics/> 2023. 6. 11)

農林水産省 (2023)「農福連携とは」

(https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/noufuku_toha.html 2023. 6. 11)

厚生労働省 (2023)「地域共生社会のポータルサイト」

(<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/renkei/> 2023. 6. 11)

日本学術会議 (2001)「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)」(<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-5.html> 2023. 6. 11)